

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和5年度（2023年度）病害虫発生予察注意報第2号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

令和5年度（2023年度）病害虫発生予察注意報第2号

農作物名 イチゴ
病害虫名 ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 収穫期（2月以降）
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠
 - （1）巡回調査における1月の本ほの寄生葉率は、29.7%（平年8.5%）で平年比多の発生であった（図1）。1月の寄生葉率としては、過去20年間のうち、警報を発出した平成28年に次いで2番目に高い（図2）。
 - （2）病害虫防除員の報告によると、1月の発生は平年比やや多～並であった。
 - （3）福岡管区気象台が1月25日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高い予想であり、ハダニ類の発生に適した条件が続くと考えられる。
- 5 防除対策
 - （1）多発後は防除が困難になるので、早期発見と早期防除の徹底に努める。
 - （2）未発生ほ場への持ち込みを防ぐため、ハダニ類が発生しているほ場の管理作業は最後に行う。
 - （3）薬剤防除の際は、効果を高めるために事前に下葉かぎを行う。除去した葉はポリ袋に詰めるなどしてほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
 - （4）薬剤防除は、十分な液量で薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布し、散布むらをなくす。
 - （5）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤を積極的に活用する。気門封鎖剤は、ハダニ類に直接付着しないと効果がないため、特に丁寧に散布する。また、卵への効果や残効性が低いため、7日程度の間隔で複数回散布する。
 - （6）カブリダニ類を放飼したほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を使用しハダニ類の密度



を抑える。ただし、ハダニ類の発生が多く天敵で抑えきれない場合は、殺ダニ剤を中心とした薬剤防除に切り替える。

(7) 薬剤の中にはミツバチの活動に影響を及ぼすものもあるので、影響の小さい薬剤を選択し、危害が出ないように使用する。

(8) 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守して安全使用に努める。

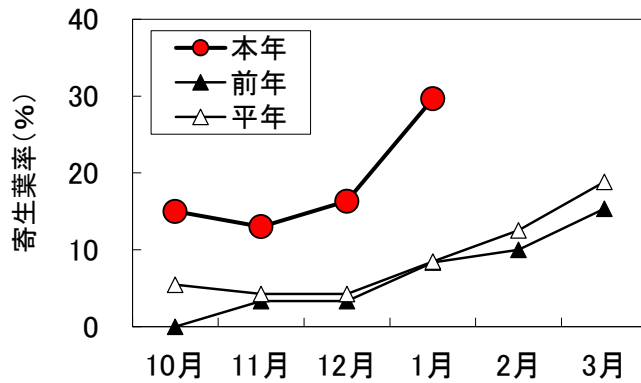


図1 巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率の推移

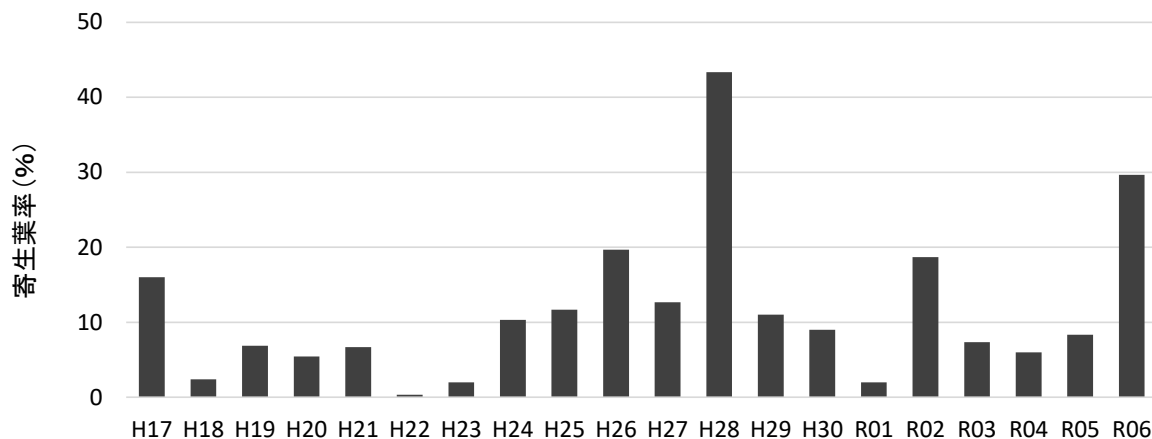


図2 1月の巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率の年次比較 (過去20年)



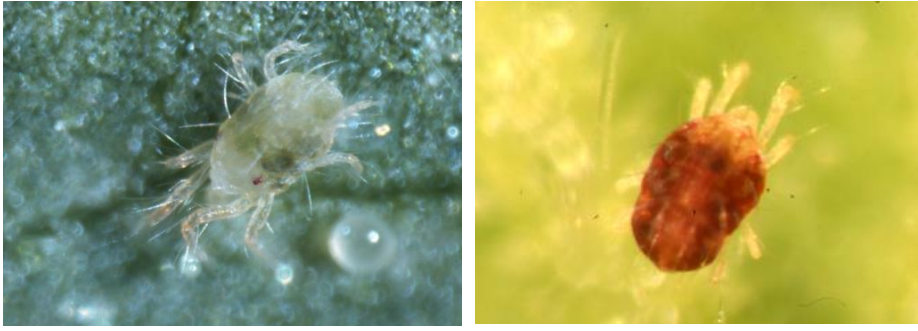


図3 イチゴに寄生するハダニ類（左：ナミハダニ、右：カンザワハダニ）



図4 ハダニ類によるイチゴの被害
（左：ハダニの吐く糸で覆われた葉、右：わい化した株）

熊本県病害虫防除所
（農業研究センター生産環境研究所内）
担当：福岡、岡島 TEL 096-248-6490



本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>」